

卷末 人は緑の息吹と共に



「人と緑の

共生する都市をめざして」

今回は、富里の街づくりのテーマにちなみ、広報でシリーズ化している「富里で見られる山野草」の拡大版をお届けします。お話を、町の植物と自然について、野草観察教室の講師である、折目庸雄さんから。また、富里写真愛好会の三浦 勇さんは、現在、町で見られる貴重な山野草の写真を、紹介いただきました。

【上】ノコンギク（キク科シオン属）「草の中に野菊咲くなり一里塚」と、正岡子規に読まれている花。日本の野菊の代表格。

【中】中央公民館主催事業の一つ「野草観察教室」。参加者のみなさんが、野原を散策しながら植物と自然の関わりについて学んでいます。

【下】オカタツナミソウ（シソ科タツナミソウ属）丘や雑木林のふもとに生える多年草。※この二つの花は共に、富里で良く見られるもの。身近な所にも、目を凝らせば、そつと咲いてる可憐な花があるので。

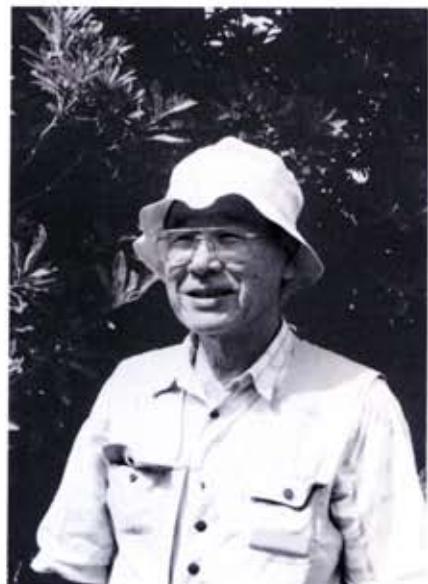


富里に生息している植物は、現在1,588種類。これは、県内でも2番目に多い数を誇るのです。失いつてある植物も確かにあります。しかし、全体としては、その種類は増え続けている。その理由というのは・・・

理由というのは、簡単に言えば、家庭に咲く花の種が野原に根付いたんですね。「なんだ」と思うかもしれないけれど、そんな当たり前のことが都市の自然を築いていくんです。でも、それだけじゃないんだな。この町の歴史的な背景としての「開拓」や「牧場」の存在が、外国やほかの街から飼料や家畜と共に新たな植物を運んで来て、この町に適応して帰化していくんだ。



カワラナデシコ
(ナデシコ科ナデシコ属)



折目庸雄さん
1928（昭和3年）生まれ



ヒレアザミ
(キク科ヒレアザミ属)



ノアザミ
(キク科アザミ属)

「カワラナデシコ」もなかなか見られない花の一つ。町の開発が進むことで、失われる植物も当然あるでしょうし、土地の造成は、新たな生態系をつくることもあります。人も植物もそれぞれに、生きる立場があるから、何事も一言ではかづけられないけれど、山林を歩くと頻繁にゴミが捨てられているのはいただけないね。

「カワラナデシコ」もなかなか見られない花の一つ。町の開発が進むことで、失われる植物も当然あるでしょうし、土地の造成は、新たな生態系をつくることもあります。人も植物もそれぞれに、生きる立場があるから、何事も一言ではかづけられないけれど、山林を歩くと頻繁にゴミが捨てられているのはいただけないね。



ヒガンバナ
(ヒガンバナ科ヒガンバナ属)



キキョウソウ
(キキョウ科キキョウソウ属)



キンラン
(ラン科キンラン属)

赤・青・黄と咲く野の花の色は、まるで、自然を彩る芸術作品のようだ

「富里にもまだ豊かな自然が残っている」という安堵感^{あんどの}を抱く反面、「それがいつまで残されるのか」という不安もあります。しかし、植物をはじめ生き物すべてが持つ「生きる力」は、人間の想像を超えるくらい、たくましいものがあるようにも思います。人は緑の息吹と共に、身近な自然へ関心を寄せるの大切さを、心から感じますね。



カザグルマ
(キンポウゲ科センニンソウ属)

5月の風に、直径10センチもある白い花が揺れていたのを見た感激は、今も忘れない。現在も個体は生息しているけれど、見事な花を毎年咲かせるとは限らないですよ。この花も含めて「危急種」と呼ばれる植物は、そのあまりの美しさから、人間の乱獲によって、絶滅に近い状況を作つていて、もつと知つてもらいたいな・・・